

< コロナ禍における私幼団体の実態調査 >

川崎市

1. コロナ禍での行政とのやり取りがどの様に行われているか

川崎市の幼児教育担当と調整会議を毎月1～2回行なっています。また、何かある毎に電話、メール、FAXなどでやり取りをしています。

2. 各政令市で感染者が出た時に、市がどこまで発表して、私幼団体がどこまで、どのように加盟園に伝えているか

加盟園の園児・教職員がPCR検査の結果で陽性の場合、ただちに川崎市の幼児教育担当への連絡と、神奈川県私学振興課教育指導グループに連絡し、その後に各区の地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）衛生課または帰国者・接触者相談センターに、園における濃厚接触者の範囲の特定、消毒方法、休園期間の設定などの相談・助言を求めるように伝えています。各園には、協会にて作成した対応マニュアル（別紙1）を配布しました。別紙1をご参照ください。また園の判断で報道発表する場合は、その内容の検討など、川崎市の幼児教育担当が窓口となることを伝えています。

3. 研修会をどの様に行っているか

研修会は9月より再開しています。受講者はマスクを着用し、事前に検温を済ませてから会場に来てもらっています。会場施設の取り決めにより受講者の氏名、住所、年齢、連絡先、体温などの提出が求められております。会場の出入り時には受講者に手指の消毒をしていただき、また受講者同士が密にならないように、座席には間隔を空けています。また、あらかじめ座席表を提示し、受付で立ち止まることなく、直接席に行けるようにするとともに、会場の換気を心がけています。

4. 予算が執行できない状況でどのように処理する予定でいるか

感染拡大防止のため4月から8月までに予定していた協会事業について、そのほとんどを中止にし、一部を延期にさせていただきました。川崎市からの協会事業補助金について、中止した研修会等の補助金は、感染対策等で発生した費用を計上し、実行されなかった部分については、川崎市と協議の上補助金を返還をする予定です。

5. 就職に向けての学生とのつながりをどの様にとらえているか、また実行しているか

9月5日（土）就職フェアを開催しました。当日は、コロナ禍でどれくらいの参加者がいるのか心配していましたが、来訪者数は昨年より若干少なかったものの、今年度はより多くの園情報を得ようとした学生が沢山いました。参加者の中には開始から終了まで、各園のブースを回っていた学生もいたようです。この就職フェアは学生にとって、幼稚園を知る良い機会になったとともに、ブース参加の園にとっては、学生との良い出会いの場となり、人材確保へ繋げてほしいと思っています。

提出期限：11月6日